
勇者は魔王で魔王は勇者で Re:Act

利瀬 時夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者は魔王で魔王は勇者で Re:Act

【Nコード】

N3519BA

【作者名】

利瀬 時夜

【あらすじ】

「どうしてこうなった？」

突如として見慣れぬ場所に帰宅途中召喚された主人公『久実河啓一』は、森に放り出される事となる。

彼を召喚したのは、この世界を司る神様だと言う。この世界を救う為に、何故か『勇者を倒して』と願う。

勇者として召喚されたはずなのに勇者を倒すのは何故？ 疑問を抱

きながら、神様より授かった能力を駆使し、旅を始める。
旅の中で、様々な人物と出逢い、山脈や森、時には湖や絶景を見ながら旅をし続けた彼等に、とうとう国が見え始める。

王政国家アクトマレシア、通称『王国』に到着した彼等は、険悪なムードにあつた騎士同士の言い争いを静める。

言い争いを静めた彼等は、啓一が勇者だと言う事が知れ、それが国全土に知れ渡る事となる。

王の間にて白状した啓一は、王にこう頼まれる。『この国を救つてはくれまいか？』と。

勇者を倒す次は国を救えと、難題に難題が降り掛かる中、彼は神に助言を仰ぐ。

勇者を倒し、国を救うと言う難題を抱えながら成長して行く啓一の一方で、新たな勇者達が召喚される事となる。

一つの世界に何人勇者を召喚してるんだし、とツツコミを入れながらも、少年は成長する。いや、成長して行くのだが　　?!
最強系主人公の異世界トリップ物語。此処に開幕。

物語主要登場人物紹介（随時更新）（前書き）

さてさて……、今回、物凄く長い物語になりそうです。はい。

さてさて、どうもおはこんばんにちわ。

近頃寒いですね、皆様、御体にお気を付け、良いお年をお過ごし下さい。

それでは、どうぞ

物語主要登場人物紹介（随時更新）

【名前】 久実河啓一 | Keiichi Kumikawa |

【年齢】 18

【性別】 男性

【職業】 高校生

【髪色】 漆黒

【瞳色】 漆黒

【口癖】 『やれやれ……』

【体質】

『デミスタル・ゲロウメント
終焉無死刑』

【能力】

ファンタジア・ネ・ドリームワークス
『夢創具現者』
インディフォルト・デヴィア・アイズ
『全知魔瞳』

【武装】

不明

【台詞】

『俺の辞書に不可能の文字はない!!』

【性格】

シニカルな言動が特徴的な、華奢だが案外筋肉質な青年。

飄々で、余裕を持った言動を取り、何処か舞台に立つ役者の様な台詞を吐くが、それは元演劇部部长であった所以だと言う。

通称『ナポレオン』。不可能を可能にする事から名付けられた学校の学年では知らない者は居ないとされる程の一種の有名な。

運動神経並々、頭脳も並々だが、時折皆も思い浮かばぬ様な発案をするキレた頭の持ち主でもある。

両親と妹が事故死しており、己と一緒に旅行に行っていればこんな事にはならなかった、と無力さに嘆き懺悔し後悔している。

責任深く、何処か素直じゃない一面も見られるが、普段は人当たり

の良い心優しい青年でもある。

余り怒る事がなく、キレル何て持ったの他だと言う。異世界に召喚されてからは『誰よりも強くなる』と誓っている。

暗殺術染みた某殺人鬼の技や、己に牙を剥く者は殺処分と言う、殺す事に躊躇いを持つ物の持たなくなれば躊躇わない。

しかし、殺した後は、敵国でも必ず供養しにいくのは、やはり彼の良心故なのかは、誰一人分らない。

ツッコミ役として活躍し、ボケに対する鋭いツッコミは人気を呼んでいる。

【名前】 サクヤ

【真名】 不明

【年齢】 16歳

【髪色】 紫銀

【瞳色】 真紅

【種族】 悪魔 エンデ・エウィル

【魔法】

デ・ヴィアント

『迅風系統』

ジ・アイシメート

『氷結系統』

【武装】

ショートソード

『短剣』

『投擲ナイフ』

ウィッチクラフト

『魔銃』

【台詞】

『ず つと着いて行くんだからっ!!』

【性格】

主人公に拾われ、名付けられた華奢で小柄な少女。

主人公に一生着いて行くと言う『自称嫁宣言』もしている。

冷静沈着に見えるが、表情豊かで、運動神経頭共に良い。

魔力に敏感で、強い魔力に触れると酔う事がある。

人間にとっては忌み嫌われる種族でもある悪魔の種族。
悪魔の中でも心優しい故、人と仲良くしようとも悪魔であるからの理由で避けられ、時には魔法を放たれる。
十五夜から十六夜にかけては危険で、猫同様発情期に陥るらしい。
ノリが良く、冷静なツツコミ役。
涙脆く、実質脆弱で、撫でられる事、人の温もり、褒められる事が好きな、羞恥心が鈍い子。

【名前】 水瀬桜 | Sakura Minase |

【年齢】 17歳

【髪色】 藍黒

【瞳色】 藍

【体質】

『マギ・ザ・ブレイク・コード
魔断法衣』

【能力】

『エルキ・アル・ウアルキユリタ
戦死者選定戦神』

【武装】

『ザ・ブリコン・ヒルデ
勝利導剣』
『アーク・デルフオート
天穿無双弓』

【台詞】

『誰か…… 助けて』

【性格】

陸上部に所属していた主人公の後輩で、心優しき少女。
華奢で小柄だが、その部活をやっていたという過去もあり、筋肉質な肉体持ちとも言える。

凜とした、筋の通った性格の持ち主で、曲がり者を嫌っている。皆の前では男の様なボーイッシュ口調だが、気に入った人間の傍に居る場合は、乙女な、女の子口調に戻ると言う豹変振り。一種のツンデレなのかどうなのか分からないが、それでいて大胆な行動も取る故に、主人公も何度かノックアウトされている。

撫でられる事、褒められる事が好きで、その為に頑張ると言っている。

元々運動神経は抜群で、陸上の県大会に出場し、ベスト4入りした実力者だが、主人公が知る事もない。

本当の殺意や殺気に弱く、精神面が脆い為、泣き易く、それでいて誰かに縋ろうと、宿木になって貰おうと必死になっている。

己の才能で、己の実力で元の世界へと帰ろうとするも、独りよがりになり、国へと助けを求めた結果、雇われる事となる。

己の持つ力も能力も武装も体質も、自分が好き好んで得た訳じゃない、と言っている。

【脇役】

【名前】 ミアーシャルド＝デアリア＝アクトマレシア

【年齢】 14歳

【髪色】 金色

【瞳色】 真紅

【種族】 英霊
エリアサイス

【体質】

『マスター・サーヴァント
絶対服従』

【魔法】

『メルフィア・ル・ケード
轟炎系統』

『アイシナ・デ・コーズゼロ
氷零系統』

【台詞】

『な、何故跪かぬ!? 何故貴様に妾の力が通じぬ!?!』

【性格】

王政国家アクトマレシア姫君。

郎明快克で、運動神経抜群克頭の良さから策士でもある。彼女を完璧と言いが、幼女体型なのが残念でもある。

明るく、笑顔が絶えない様に見得るが、反王国の人間からは『臍抜け』や『弱虫』、或いは『弱小国家に仕上げた元凶』等と言われ忌

み嫌われている。強気なのは、人前だけ。実質涙脆く、弱い一面も見られる。

己の無力さが憎い、とも嘆くことが多々。

彼女の特殊体質故に、言われた者は絶対に跪くのだが、主人公だけが跪かなかった。

『愛』と言うのを知らず、父親と母親（王と王妃）は業務故に、彼女を育てるだけ育てれば放置していた為、彼女は愛^{II}子作りと思いつ込んでいる一面もちらほら窺える。

ぶつ飛んだ発言や、物凄い大胆な行動を取るが、彼女自身特に羞恥にも何も思っていない。

【名前】 ギル^{II}ヴァラン^{II}アームストロング

【年齢】 17歳

【髪色】 金色

【瞳色】 金色

【種族】 人間^{ヒュニム}

【体質】 無し

【能術技巧】

『ウェボン・ブレイク』

『武装破壊』

『マギ・ブラスト』

『魔法破壊』

『ワンス・ソードアーティンク』

『我流剣術』

【特業】

『エルバシール・テルフェオーガ』

『荒狂鬼神』

【台詞】

『く、フ、アハツハツハツハツハツハツハ！！！！ 良かろう、その言伝、確かに預かったアツ！！』

【性格】
世界中を旅する事が夢の、賞金稼ぎ。見た目のその熱血さよりは細く華奢で筋肉質
元々『王政国家マスケルディア』の騎士団だったが、手違いにより

脱隊を命じられ、今に至る。

騎士団の『アル＝フ＝ウォンレッダ』と言う今の騎士団長とは未だに友人であり、時折酒場に現れる彼と飲み明かすほど。

寛大で、無駄に資金のある男。

能術技巧の全ては我流で、魔法や武装破壊も我流。

心優しく、無駄に暑苦しいのが特徴的。冷静沈着な啓祐とは正反対である。

男気熱い男で、王道を歩む事を目する。主人公を好敵手あいはつと称し、飲み仲間としている。

無駄な殺生はしないとの事で、怒ると全てを薙ぎ払う『荒れ狂う鬼神』と言う全能力を解放する破壊業を発する。

【名前】 アル＝フ＝ウォンレッダ

【年齢】 23歳

【髪色】 真紅

【瞳色】 真紅

【体格】 華奢克筋肉質

【種族】 人間ヒュニム

【体質】

『レイ・ザ・ヒーロニズム
英雄王』

【魔法】

『ビルディ・アップ・マジエスタ
肉体強化』

【能術技巧】

『騎士剣術』

『武装破壊』

『水晶破壊』

【特業】

『ナイツ・オブ・クエスター
冷訣騎王撃』

【台詞】

『そうか して、君はこの国をどう思うっ？』

【性格】

ギルの親友で、若きして英雄王と称される、華奢で筋肉質な青年。元々ギルとは競い合う仲で、未だに酒を飲み明かす仲間。

冷静沈着克、人当たりの良い男。騎士団では一番のモテ男で、主人公様の無自覚女垂らし。

口説き文句が口から呼吸をする様に吐かれる為、女性の敵とも言われている。

戦う時は肉体強化魔法を己に掛けてから、技巧能術を使用し特攻する姿が特徴的。

『退け』の一言と同時に蒼白の殺気を纏う『冷訣なる騎士王の剣』は、一撃で空中浮遊要塞を撃墜する力を持つ。

ギル同様、無駄な殺生はしない、主人公に似た青年。

【名前】 グラティアールⅡゼアⅡハルート

【年齢】 30歳

【髪色】 金色短髪

【瞳色】 深い真紅や黒、藍色の混じった闇色

【種族】 王雄レイロ

【体質】 無し

【魔法】

ゲイト・オブ・ディバスト

『深淵流門』

ゲイト・オブ・ブレイズワーカー

『剣舞虚門』

ゲイト・オブ・ヒステイレリック

『壁歴頭門』

【武装】 特に無し

【台詞】

『ふん、貴様の様な物は此処で散り逝け』

【性格】

世にも珍しい『ゲイト門系統』の魔法を扱う騎士王と称される男。

朱天騎士とも称され、朱覇に最も近い男とされている。

孤高で誇り高き騎士道を全うする男に見えるが、実際違い、確かに

孤高で誇り高いが、自分勝手克己のエゴは貫き通す男。
女に弱く、唯一女性に俺は戦では負けると自他ともに認めている。
門系統魔法で己の金色の防具を纏わせる事も可能であり、大体の時は私室で眠っている事が多い。
主人公に興味を湧いていく事で、積極的に外に出始める。

【名前】 カノン シア ニスト オスケア

【年齢】 21歳

【髪色】 真紅

【瞳色】 真紅

【種族】 吸血鬼
ヴァンプレイト

【体質】

『インプレス・ベティアレンス
衝動抑止』

【魔法】

『バニッシア・ズ・フランメシア
炎渦流乱』

『エアクロック・ザ・ポインター
風点操作』

【技巧能術】

『騎士剣術』

『衝動解放』

【武装】

『エクシーヴァ
両刃剣』

『投擲ナイフ』

『ルケアスカー
魔銃』

【台詞】

『知りません。で、ですが、此処で貴方が死ねば私の責任となりま
すので、仕方が無いから背中、預らせて頂きます』

【性格】

完全な吸血鬼の、華奢で小柄な女性。

一応『戦誇女神』の一員だが、その実力はそれでも上から10位程
度。

己の実力不足に毎度嘆く姿に、彼女に付いた渾名が『秀才たる戦姫』。
。 実力不足で負ける事に悔しさと生き甲斐を持っており、負ければ次勝つ為の修練を行う。
主人公すら叩き伏せる力を持っている程の筋力と腕力を持っている。
炎と風を操り、蝙蝠を集める事でマントや羽を形成出来、己の吸血衝動や性欲の衝動を抑止出来る体質持ち。
そして若干のツンデレ持ち故、皆から良く弄られる。

【名前】 ミネアⅡルカータⅡテⅡディヴィム

【年齢】 18歳

【髪色】 藍色

【瞳色】 藍色

【種族】 人間

【体質】 特に無し

【魔法】 特に無し

【技巧能術】

『騎士剣術』

『我流剣術』

『衝破剣術』

【武装】

『エン・ブランド』

『両刃剣』

『セイエステトリア』

『短剣旧式』

【性格】

完全騎士道を全うする女性騎士。
年齢は然程主人公と大差ないが、その立派さは主人公とは天と地の差。

無論、一直線だけ故、頭を使わないのか、脳筋と言われる事が多々。
技巧能術が多く、代わりに魔法が一つも使えない。

泣き脆く、弱点を握られると弱い。撫でられる事を好み、従う相手

には忠実。

案外自虐的で、マゾ性質持ち。

二刀を扱う二刀流の使い手で、その扱いからもつと筋肉質に見えるが、実は華奢で細身。

【名前】 アブルⅡチアⅡダヴァエイザー

【年齢】 27歳

【髪色】 緑髪

【瞳色】 金色

【種族】 半妖魔
ハイフ・レ・デヴィル

【体質】

ドライウ・ジ・マジエスタ
『半永久魔力貯蔵体』

【魔法】

ザ・ブリューナク
『霹靂五誅』

イフ・レ・リユート
『業火魔人』

ブリジスタ・シ・ヴァーツ
『吹雪纏女』

【台詞】

『あのクソ帝王がこの俺様を次なる王として認めて置けば！！この国は人造の人間で護られる安全国家になっていたと言っのに……、つくづくあの馬鹿な帝王には呆れさせられる』

【性格】

他国の研究者であり、半永久の魔力を所持する貯蓄体所持者。

己を認めぬ王に対して反逆し、『痛覚を持たぬ殺戮人造兵器』を作ろうとした。

一種の禁忌術式『人創』をしようとしているらしい。

炎、雷、氷属性の魔法を扱う魔法の専門家で、その頭脳は主人公とは雲泥の差。

運動神経は悪い分、魔法でカバーする高等技術を扱う。

主人公の様な現実主義者でない、それこそ理想主義者の人間を嫌い、殺意を湧かせる。

【名前】 アヴァンチアⅡレⅡロアネスタ

【年齢】 23歳

【髪色】 紫

【瞳色】 紫

【種族】 人間

【体質】

『纏壊黒炎（ファイファイア・ブロークニーズ・インファイアーズ）』

【魔法】

ザ・メンティアフランメ

『黒炎系統』

ザ・リバース

『超速再生』

【武装】

炎により作られる槍や剣

【性格】

参謀を務める破壊者の青年。

体質により遠距離の攻撃は全て黒き炎によって防がれる。

他不明とされている謎多き青年。

【皇国（帝国、王国、学術国）兵の皆さん】

【通常兵】

【強化兵】

【指揮官】

【銃器兵】

【衛生兵】

【水兵】

【竜騎兵】

【特攻兵】

【諜報兵】

【偵察兵】

【前衛兵】

【後衛兵】

【盾壁兵】

【進槍兵】

等々

【名前】 シン＝アイン＝ソウオード

【年齢】 21歳

【髪色】 オレンジ

【瞳色】 真紅

【種族】 人間

【体質】 特になし

【魔法】

チエーン・デスクーニール

『戒枷鎖縛』

フォルティアール・デア・ランス

『四連属槍』

インレシブル・ウオード

『透明姿消』

【性格】

オレンジ色の髪と真紅の瞳、そして真紅のストールを巻いている特徴的な赤一色の青年。

白鷹の幹部で、莫大な情報量を保有している。

行動範囲と許容範囲内であれば、全てを駆逐、あるいはその駆逐する物の情報を得る事が可能。

運動神経は抜群で、頭も幹部で情報保有者故に良いが、何処か抜けている一面もある。

冷静沈着で、その場の事を静かに把握する心境の持ち主。

唯一女性に弱く、女性と接したり、女性と寝るなど言語道断と告げている。

【名前】 マリナ＝ティエ＝リヒテンドール

【年齢】 22歳

【髪色】 金色

【瞳色】 金色

【魔法】

クロスリック・ヒーラー

『治癒十字』

エントリール・エリア

『結界領域』

【性格】

シン同様白鷹の一員で、衛生兵を務める半獣。ハイファン・アニメルロード

普段は花屋を営み、しがない生活を送っている。

耳と尻尾が弱点であり、猫故に運動神経は抜群。

頭が物凄く良く、戦争時の作戦や、領地を得る領戦、潜入作戦時は

必ず彼女の案が筆頭する。

策士策に溺れるではないが、彼女は作戦が失敗すると、こんがらが
る事が多々あり、故に作戦に失敗は出せない。

魔物の生態研究にも一躍買っており、魔物を捕獲する事に関しては
厳しい。

【名前】 リクルアルールエースカツシユアロー

【年齢】 不明

【髪色】 濃紺

【瞳色】 濃紺

【魔法】

エンシエンティア・マジエスタ

『古代魔術系統』

エンシエンティア・サモンシア

『古代召喚系統』

【性格】

年齢のみ知れている古代魔術の使用者。

影を召喚する魔術や、炎を突如として発生させる等、自然干渉を全
くとして必要としない魔術が特徴的。

濃紺の藍色の長い髪と瞳に、女性の様に線の細い体と端正な顔が男
性すら目を惹き、無口に近い。

年齢不詳で、彼には一切現存の魔術や攻撃は効かないとされている。
根暗な性格等と言われるが、生まれた頃からそうらしいので気にし

ていないらしい。

『ルナティック・オブ・プリンセス月下姫君』と呼ばれる光の塊の様な存在を探していると言っ。

【影】

【竜】

【獣】

【人】

【混合種】

【不明】

物語主要用語紹介（随時更新）

『レジエンディア』

主人公の召喚された異世界。

合計六大陸に分裂しており、それぞれがそれぞれで役割をこなしている。

？ 東方大陸

？ 西方大陸

？ 北方大陸

？ 南方大陸

？ 中央大陸

？ 浮遊大陸

何処の領域にも納まらないのが浮遊大陸で、周期をかけて世界を巡っているのだと言う。

十年に一度世界に勇者が召喚される事となっており、丁度主人公は十年目で召喚されたのだと言う。主人公は東方大陸に召喚される事となる。

『第零血盟』と呼ばれる大陸を司る頂点達の集まる集会もあり、これに出席するのは皆『司界者^{ルシア}』と呼ばれる者達だけである。『司界者』は百年に一度の割合で交代が為され、『司界者』の力は軍神と呼ばれる召喚獣をも一撃で殺す力を持つと言う。

マテリアル・ワールド
『物質世界』

地球の、それも人間界を指す言葉。

物質や法則で完全支配された世界の事を指す単語。

十年に一度、勇者として召喚する為の媒体でもある。

ルシア・デルエート・アティブネス
『司界者介入禁止令』

司界者を決して戦争に介入させはならないと言う皆で決定した法

律。

破った者には神の鉄槌と言つ恐ろしき罰が待っていると云う。神の鉄槌は天上の裁きと言つ話もあり、天上の裁きを受けた者は欠片一つも残らず消え去る運命とも言われている。

『魔力』

常人には不可能な手法や結果を実現する力の源。自然界に満ち溢れており、精霊の力とも呼ばれている。

『魔法』

魔力を媒体として発動する超常的克神秘的な力。基本的に黒魔術と白魔術に大分類されるが、この分類は便宜的な物で、実際時魔術や空間魔術等も存在するため数は不明とも言える。

文化文化、居場所居場所で魔術発動条件は違い、それが自然界の精霊に干渉する事で発動する魔術と、自然界に干渉するだけで発動するかの違いや、神への祈りや誓い、生贄により発動する犠牲儀式魔法なども民族間では存在したりもする。一般的に魔法は『マジ』や『マジエスタ』と呼ばれ、魔法相殺、魔法発動無効化装置等が今では存在する。『水晶』^{クリスタル}と呼ばれる魔力により生成された魔力の塊を媒体に発動する事も可能。他にも『妙技』や『珍技』、『魔道』や『魔導』とも呼ばれる力でもあるが、それはやはり文化の違いとも言える。

『詠唱』^{スベル}

魔法を発動する際に捧げる言の葉。

長ければ長い程、その魔法の級は高く、威力も大きい。

『技巧能術』^{アーツスキル}

剣術、槍術、弓術、武術、流術を指し、技としてそれを確定する為の能力手段。

魔法を持たない者は、この力を強力化させ、単独でも最前線を戦い抜ける様に日々訓練を怠らないと言う。相当なスキル所持者は最前線でも主力を張れる程。

『王政国家アクトマレシア』

通称『王国』。時代の波に飲まれた悲運の国ともされ、伝説にも残る霸王の血統を引く『朱覇』^{しゅば}司界者エルシエアⅡロンⅡスザクがアクトマレシア家興したのを発祥とする、由緒正しき国家。霸王の遺産『朱覇の指輪』を代々受け継ぐ三国の一つ。同盟国や属国は多く、関係は概ね良好。一部を除く。人口約3000万人を誇る国家で、グラティアと呼ばれる一騎当千にも及ぶ朱天騎士を保有する強国でもある。しかし、建国から350年の時、隣国であった『皇帝国家テンペシア』の滅亡により、領地拡大するもその分、王国を滅ぼし、その領地を全て得ようとする国家との戦争により、第一時期のアクトマレシアは滅亡。そして新たにアクトマレシアとして建国された現在は概ね関係良好、領土もそこそこと言った状態で存在している。

『皇帝国家エスペンティア』

通称『皇国』。一度帝国に滅ぼされたテンペシアの復興後の姿。消失を遂げた国家とも呼ばれており、もう一つの霸王の血統を引く『碧覇』^{へきは}司界者ラヴニアⅡアスケルニーヴⅡゲンブが存在し、霸王の遺産『碧覇の断片』を保有する国家。同盟国と言うか連合国『連合国アスケメディア』の軍を駐留させようとした親派がアスケメディアが武装蜂起。この隙に乗じて『帝政国家アルトレスト』軍が侵攻し、内乱状態にあった皇都エスペアを包囲する。だが、それから数日後、謎の大爆発により当時のテンペシアは滅亡した。エスペンティアはテンペシアの残骸を排除する代わりに戦死した者達や罰初に巻き込まれた民間人を供養する儀を行い、皆を納める教会を造り上げた。ヴァスタと呼ばれる第一王子も程無くして戦死する。そしてテンペシアは完全滅亡したと言う。現在エスペンティアの人口は2

500万人弱を持ち、中にはテンペシアの生き残りも存在するらしいが、見た事はないと言う。

『帝政国家アルトレストタ』

通称『帝国』。全土に覇を唱える最強の軍事国家。最後の霸王の血統を引く『黄覇』（こっほ）司界者エスケアⅡルルⅡビヤツコが存在し、霸王の遺産『黄覇の契剣』を保有する国家。東方大陸の大半を領有する強国で、元は『エスシア連邦』と呼ばれる『アルトレストタ』、『ヴァイツ』、『コーディアンツ』の三大陸に跨る連邦大陸の都市国家の一つに過ぎなかったが、共和制、帝政と政治形態を変える過程で本格的な軍事国家と化し、今やエルディアンテで、一、二を競う大国となった。建国当初から協議制が根付いているため、国内の法制度は先進的克合理的。階級差別や奴隷制度は存在はする物の、市民の生活水準は極めて高い。実力で上の級に上がる事も許可されている。技術大国として発展した国家は、様々な軍事兵器を所持しており、空中浮遊要塞『要塞艦隊』（コルモア）や『軽巡艦隊』（シヴァ）、『殲滅要塞』（ルンフェル）等といった要塞艦隊が多く空中を浮遊している。人口は4000万人と大陸の中ではダントツでもある。

『神徒国家ヴァルエルータ』

通称『神国』。エルディアンテ全土に伝わる宗教、『サステイヴァ教』の聖地。厳密には国家とは言えないが、一応政治形態や軍事形態が整えられている為、国家として扱われている。あくまでサステイヴァ教修行の地である此処は、政治形態が整っているとは言え、其処まで深くなく、教団支援者や多額の寄付金を難民の救済に務めている、どちらかと言えば非政府的機構国家。また、大僧正がマスケルディアとアルトレストタの王位継承に関わる立場に居る事から、ヴァルエルータは国際情勢に対して一定の影響力を持つ。

『学術国家エルグラス』

通称『術国』。覇権を狙う魔法に置いては相当の実力と実戦経験を持つ国家。霸王の血統を引く『蒼覇』司界者スサナⅡエルⅡソウリユウが存在し、霸王の遺産『蒼覇の盟壁』を保有する国家。エルデアンテ大陸のアハト大砂海を越えた先にある西を納める大国。大陸中央に広がる平野部を領土とし、諸氏族の連合体として誕生した国家。国の殆どが魔法を扱える人種で、魔法を所持し、騎士にも立ち向かい、歯向かう、戦える部隊を『蒼空魔団』を保有する珍しい国家でもある。覇権を狙う国であるが、アルトレスタ帝国との戦争で大敗。現在は劣勢に立たされている。軍国化制度の軍事組織を基本とした国家で、帝政政治形態を持つ。人口は1500万人と少なく、その約過半数が魔法使いである。

『連合国家アスケメディア』

通称『連国』。様々な諸国家群と、諸氏族の連合体として誕生しか国家。霸王の血統を引く『紫覇』司界者マテラⅡリアⅡイザナギが存在する、いや、と言うより、存在してくれた珍しい国家。故にこの国家はマテラにより建国された国家とも言え、マテラの『国家を纏める国家』の案から生まれたともされる。解放軍と呼ばれる軍事組織を持ち、人口はおよそ1000万人。その内の三割は解放軍として最前線に立ち続けている。解放軍とは奴隷として扱われる民族人種、国家の解放を狙った外交圧力組織。エルデアンテ全土に解放軍は地下組織として存在するも、アスケメディア程の実力者の集う解放軍は中々存在しない。

『浮遊国家イエシニクリ』

通称『浮国』。危うい自由と解放に浮かぶ中立国家。霸王の血統を引く最後の者『黒覇』司界者マサムネⅡデⅡミハトⅡハバキと呼ばれる最後の血統者を存在させる、霸王の遺産『黒覇の魔晶』を保有する浮遊国家。連邦時代から続く自治的国家で、サスヴァーン侯の手腕に自治問題が掛かっている。現在の元首はレルヤⅡハルⅡサスヴ

アーン七世。魔法の蓄積された水晶の源でもある『魔晶』の産出する唯一の魔晶鉱を保有する。この魔晶鉱も管轄の内であり、無許可の密猟は禁止され、した者には罰が与えられると言う。近代の政治形態は帝国よりで、だが、帝国から人々を解放しようと言う意識は変わらず、解放軍の組織と連絡を密通している。中立の立場から人口800万人での停戦調停と称しつつ、己が国に有利な情報を発表した。その為、現在は中立国家と言うより、皇国に良好な関係を築く国家とも言える。

『ナイツ・オブ・スカレット
紅十字騎士団』

王政国家アクトマレシアに存在する騎士団。

皆、白色の騎士服の裏に必ず真紅の十字架が刻まれているのを着ている事から名付けられた。

治安維持、犯罪者確保等治安関係に貢献する武装団体。

第一から第六まで存在し、第一から第二は上級任務のみ。

第三から第四は空中に舞う相手の場合出現時。

第五から第六は必ず出動する様に組み込まれている。

『バトス・ブルグ
黒鷲』

地下にて存在する解放軍の団体。

主に奴隷解放、民族解放、種族解放や、国の場所の解放の為のデモ運動に似た行為の中でも最も強力なデモ活動と考えれば良い。

武装団体と変わらず、中には魔法を使える者や、技巧能術を扱える者が存在する。

皆無殺生を掲げているも、止むを得ない場合は殺す事もある。

『エツヴァ・リゲテート
白鷹』

黒鷹の同様だが、地上にて情報を得る情報組織。

各個人で活動し、それぞれで収集した情報を酒場の奥等で出し合い、決定する協和制が決められている。

但し、中には罪人も存在する故、捕まれば一発で『獄牢』ラビリンズ行きだと言う。

此方は武装もしているが、魔法や技巧能術より通常戦闘の方が強い。

『煌刃残光』エル・デライト

黒鷹白鷲を駆逐する組織団体。

皆が捕縛魔法や、確保する魔法相殺武器、魔法破壊武装等を所持している。

騎士団とは違い、部隊編成がない自由構造の組織。

単独で狩る者も居れば、集団で狩る者と多々。

魔物駆逐も行うが、対魔物戦の武装とはいえない武装ばかり故、戦うには少々難有りとも言える。

『戦誇女神』キラア・レ・ヴァルキユール

戦好きの女神、通称『戦で倒れる運命の戦士を選ぶ女神』と称される団体。

対魔物専用の駆逐組織で、それこそ女性陣が多い。

鍛え方が違うのか、男性陣の場合は筋力トレーニングが多く見える。魔法や技巧能術を主力に闘う事が多いので、通常戦闘は男性陣の団体に任せられる。

『騙嘘魔狼』リウフ・ス・フェンリル

戦誇女神の正反対の男性陣で結成された魔物駆逐組織。

『嘘を吐かれ騙された魔の巨狼』より称された団体。

近距離での通常武器主力攻撃を得意とした男性陣オンリー組織。

魔法や技巧能術は戦誇女神に任されるので、自分達は我が物顔で戦場を駆け抜ける事が可能。

第零話 どうしてこうなった(前書き)

さてさて、第零話。

漸く此処まで参りました。

それではどうぞ！

第零話 どうしてこうなった

「…………え？」

間の抜けた声を上げつつ周囲を見回した彼は、視線を再び正面に戻し「…………は？」と呟いた。

彼は断じて間抜けではない。無論、精神病の類に掛かっている訳でもない。

唯単に今彼の目の前で起きている事が、彼を今の状況にしていると言える。

視線を正面から右左に再び動かし、正面に戻してを数回繰り返し、漸く^{やじみ}落ち着きを取り戻したのか彼は小さく笑み、溜め息を吐いてから、呟いた。

「どうしてこうなった？」

そもそもの始まりは、余りに眠かったので、授業中にも関わらず熟睡してしまった彼が、教師に教科書の角で後頭部に打撃を加えられた事だった。

「つ…………うう、教師が暴力振るって良いんすか？」

実際倒れる程眠かったのだ。理由としては実に単純で、徹夜で買ったばかりの本を読み耽ってしまったのだ。寝たのは実に朝の5時半、気付けば太陽の光が窓から差し込んでいたのを彼は覚えている。

冷え性か？

徐々に意識が戻り、瞳を開いた彼の目の前に移った物は、見慣れた教室の天井ではなかった。

「……………」

まるで水の中に居るかの様な、ふわふわとした浮遊感の中、彼の目に移ったのは漆黒の空間。

何も無い。

黒、黒、黒。

見渡す限り黒。

そして360度北海道宜しく地平線　だが黒。

「……………何処よ此処」

まさか、チョーク直撃した位で死んじまったのか俺は！？　と頭

抱えれば　同時、黒の空間はまるで紙を破る様にして引き裂かれ

頭から手を離し、差し込む眩い光に顔顰めた彼は、ポン、と空間から吐き出される。

ドサツと落とされた彼は、思い切り尻餅を着き、顔を再び顰める羽目になった。

「っ、う……………、皆揃って俺への扱い乱暴過ぎるだろ……………、もっと丁寧な扱えよな、……………、何時か拗ねちゃうぞ、俺」

ぶつぶつと不満を吐き出しながら、腰を擦り周囲を見回せば、彼は気付く。

「此処……、何処？」

其処は、見慣れた教室でも、校舎でも、学校でも、自宅でも、裏庭でも、公園でも、コンビニでもなく。

「何故に、ジャングル？」

アフリカ宜しく、木々の鬱蒼と生い茂る、ジャングルだった。

「……」

天を仰いだ彼は、達観した様な、それでいてやるせなさを込めた笑みを浮かべ、呟いた。

「どろしてこうなった……？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3519ba/>

勇者は魔王で魔王は勇者で Re:Act

2012年1月9日02時49分発行